

5 年 国 語 科 学 習 指 導 案

1. 日 時 令和6年9月20日(金) 第5時限 (13:35~14:20)

2. 学年・組 5年2組 在籍31名

3. 単元名 「文化を受けつぐ」ことについて考えよう

教材 ( 「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐるー」 東京書籍 )

4. 単元の関連と系統

前単元 (7月)	本単元 (9月)	次単元 (1月)
<p>書き手の意図を考えよう 「新聞記事を読み比べよう」 ○書き手が、記事の内容や見出し、写真に、どのような意図を込めているのかを考えることができる。</p>	<p>「文化を受けつぐ」ことについて考えよう 「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」 ○筆者の言う「文化を受けつぐ」ということについて、ほかの情報を重ね合わせ、自分の考えをまとめて交流することができる。</p>	<p>ロボットとの未来について考えよう 「『弱いロボット』だからできること」 ○二つの文章を読み、ロボットとの未来について考えたことを話し合うことができる。</p>

5. 学習目標

○筆者の言う「文化を受けつぐ」ということについて、ほかの情報を重ね合わせ、自分の考えをまとめて交流することができる。

- ・情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。
- ・進んで情報を重ね合わせて読み、学習の見通しを持って自分の考えを交流することができる。

6. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	読むこと	話すこと・聞くこと	
・情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。</li> <li>・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。</li> <li>・自分の考えと比べて、似ているところや違うところに注目して聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで情報を重ね合わせて読み、学習の見通しを持って自分の考えを交流しようとしている。</li> </ul>

## 7. 指導にあたって

### (児童観)

本学級の児童は、国語科の学習に対して意欲的である。自分の考えを発表することが苦手な児童もいるが、ノートに考えたことを書くなど前向きに取り組む児童が多い。

書くこととして、5月の「インターネットは冒険だ」の学習では、要旨をまとめ、自分の考えを伝える活動を行った。要旨を捉えたり、筆者の考えをまとめたりすることができている児童が多かったが、自分の考えを書くことが難しい児童がいた。6月の「地域のみりよくを伝えよう」の学習では、自分たちが住む地域の魅力を多くの人に伝えるために、ポスターを作る活動を行った。児童はこれまでに始め・中・終わりなど構成を工夫しながら文章を書いてきている。その経験を活かして、自分が読み手に伝えたい考えを筋道立てて書くことを意識している様子が見られた。

読むこととして、5月の「インターネットは冒険だ」の学習では、内容や筆者の考えの中心を捉えるために、文章の構成を図や表にまとめ、文章を序論・本論・結論の三部構成に分け、その後それぞれのまとまりに段落の要点を書き、整理する活動を行った。その結果、事実と感想、意見などとの関係を押さえた上で、文章全体の構成を捉えたり、要旨を読み取ったりすることができるようになってきた。「新聞記事を読み比べよう」では、書き手の意図を捉えながら読む力を身につけるために、同じ出来事について書かれた二つの新聞記事を読み比べる学習を行った。児童はこれまで本や文章を読むことを学習してきているが、写真を含む多様な資料を比べて読む経験は少ない。そのため、二つの新聞記事を読み比べて、記事や写真の関係に注意しながら、書き手の意図を考える活動を行った。見出しやリード文を読み比べることで、同じ出来事を取り上げた記事でも、書き手の意図によって内容や書き方が違うことを確かめた。また、写真と文章の関係について考え、記事の文章に合わせて掲載されている写真には、文章の内容を表すだけでなく、書き手のメッセージを強調する役割があることを学んだ。児童は、文章の構成について考えたり、一つの資料をもとに要約して要旨を捉えたりする経験は積み重ねている。しかし、複数の資料を関連づけて読む経験はまだ少なく、課題が見られる。

### (単元観)

本教材は、伝統的な和の文化に関するものの中でも児童が想起しやすい和菓子を題材としたものであり、教材文「和の文化を受けつぐ」と和菓子職人のインタビュー記事を重ね合わせて読む学習ができるようになっていく。

教材文については、筆者の「文化を受けつぐ」ことについての考えが序論・本論・結論の構成が明確な文章で分かりやすく書かれている。本論では、和菓子を「和菓子の歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人」の3つの観点から説明している。本論1では、和菓子がどのようにして確立していったのかについて取り上げられている。日本古来の食べ物に、外国から来た食べ物が影響を与えることで、和菓子の歴史に変化が生まれたことが、年表を使って分かりやすく説明されている。本論2では、和菓子には季節や自然・風土との関わりや、人々の願いや思いとの関わりがあることについて述べられている。また、和菓子の写真が資料として用いられており、書き手の意図を考えることにつなげることができる。本論3では、和菓子を支える人について書かれており、和菓子を作る職人だけでなく、和菓子作りに関わる道具や材料を作る人たちや和菓子を味わい楽しむ人たちなど、多くの人々に支えられていることに気付くことができる。

インタビュー記事は、グアム出身の和菓子職人ビルさんが様々な苦労や努力を重ねながら、日本文化を受け継いでいることが読み取ることができる資料である。そこには、長年の経験がありながら毎日が修行であるという考え、伝統を受け継ぎながら新しいものを生み出そうとする情熱、常にお客さんを喜ばせたいという思いが書かれている。教材文の観点の一つ「支える人」の和菓子を作る職人の部分に焦点化したこのインタビュー記事を読むことで、教材文を読んだだけでは分からない、より具体的な「支える人」についての内容を知ること

とができる。

(指導観)

本単元では、教材文と和菓子職人のインタビュー記事を重ね合わせて読み、「文化を受けつぐ」ことについて、気付いたことや考えたことを、文章にまとめ交流するという言語活動を設定した。毎時間の振り返りには、「なしともも」を活用し、「文化を受けつぐ」ことについて、継続的に自らの学びを振り返るようにする(方法②)。

第Ⅰ次では、和菓子職人のインタビュー記事が書かれたワークシートを活用し、インタビュー記事を読んで、和菓子職人が「文化を受けつぐ」ために大切にしていることがわかる文章を見つけ、線を引く活動を行う。本教材の最後に載っているインタビュー記事に最初に触れることで、児童が興味関心をもって本文に進むことができるようにする。その後、教材文の導入として「和の文化を受けつぐ」という題名とともに和菓子の写真に着目し、和菓子を食べた経験や和菓子と同じように自分たちの身近にある「和の文化」について想起させ、和の文化についての学習に対して興味を持って取り組めるようにする。そして、本単元では「文化を受けつぐ」ことについて考えるという目的とともに、複数の資料の「情報を重ね合わせて読む」ことを確認し、単元の見通しを持って学習を進めていくことができるようにする(方法①)。

第Ⅱ次では、要旨を捉えるために序論・本論・結論の3つのまとまりに分ける活動を行う。そして、本論で筆者は、どのような観点のもとに「文化を受けつぐ」ことについて説明しているか考えていく。接続語を手掛かりに「和菓子の歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人々」の3つの観点から述べられていることを読み取る。その際、歴史を示した年表や、文章に合わせて掲載されている写真について着目し、目的に応じた資料の活用の仕方について確認する。結論では、本論で述べられていた3つの観点のもとに、「文化を受けつぐ」ことについての筆者の主張を捉えることができるようにする。そのため、⑩段落では、「このように」で本論のまとめと、和菓子についての筆者の考え、⑪段落では「和の文化を受けつぐ」ことについて筆者の考えが述べられていることを押さえておく(方法③)。

第Ⅲ次では、和菓子職人のインタビュー記事をもう一度読み、「文化を受けつぐ」ことについて考える。第Ⅰ次で使用したワークシートを活用し、本文で学習した「文化を受けつぐ」という視点をもって、改めて和菓子職人が「文化を受けつぐ」ために大切にしていることを見つけて線を引く。第Ⅰ次と同様に、見つけたところに線を引いていくが、第Ⅰ次とは違う色で線を引くように伝える。違う色の線にすることによって、教材文を学習した後に、自分の考えや感じ方がどのように変化したのかを分かりやすくする。その際、なぜそう思ったのか根拠や理由をワークシートにメモを書いておく。根拠や理由を書くことが難しい児童には、本文と似ている内容の文章を見つけるように声をかける(方法④)。そして、「文化を受けつぐ」ことについて考えたことを他の人とグループで交流する。自分の考えと似ているけれど根拠や理由付けが違った考え方や、自分の考えとは違うけれど根拠が似ている考えなどを意識して、他の人の考えを聞くようにする。書いた考えはPCで共有できるようにし、考えを深めることができるようにする。

最後に、これまでの学習を振り返り「文化を受けつぐ」ことがどういうことか、第Ⅰ次で使用したワークシートを基に、自分の考えの根拠や理由について文章でまとめる。その際、「文化を受けつぐ」ことについての最初の考え(序論)、教材文やインタビュー記事、友達の発表から考えたこと(本論)、「文化を受けつぐ」ことについての自分の考え(結論)という文章の構成を意識する。そして、各自の考えをまとめた文章をPCで共有し、感想を伝え合う活動を行う。書いた文章はPCを使って全体で共有できるようにする(方法⑤)。

8・学習指導計画（全8時間）

次	時	学習活動	指導・支援・評価（◇）
I	1	<p>○インタビュー記事を読み、職人の和菓子への思いが分かるところに線を引く。</p> <p>○全文を通読して、単元の見通しを持つ。</p>	<p>・ワークシートを用意し、第Ⅲ次で自分の考えを振り返ることができるようにする。</p> <p>・自分たちの身近にはどんな和の文化があるのか想起させ、「文化を受けつぐ」ことについて考えるという見通しを持つことができる。</p> <p>◇単元の学習の見通しを持つことができる。</p>
II	2	<p>○本文を序論・本論・結論に分け、文章の構成を捉える。</p> <p>○序論・結論に書かれている内容を読み取る。</p>	<p>・序論・本論・結論の構成を考えることができるようにするために、筆者が和菓子についてどのような観点から説明しているのかを手掛かりにできるようにする。</p> <p>・序論・結論の内容を読み取り、文章の要旨をつかむことができるようにする。</p> <p>◇文章の構成を捉えることができる。</p>
	3	<p>○本論1「和菓子の歴史」に書かれている内容を読み取る。</p>	<p>・筆者が和菓子について「和菓子の歴史」という観点から、どのようなことを説明しているのかに着目できるようにする。</p> <p>◇目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。</p>
	4	<p>○本論2「ほかの文化との関わり」に書かれている内容を読み取る。</p>	<p>・筆者が和菓子について「ほかの文化との関わり」という観点から、どのようなことを説明しているのかに着目できるようにする。</p> <p>◇目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。</p>
	5	<p>○本論3「支える人々」に書かれている内容を読み取る。</p>	<p>・筆者が和菓子について「支える人々」という観点から、どのようなことを説明しているのかに着目できるようにする。</p> <p>◇目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。</p>

III	6 (本時)	○教材文とインタビュー記事とを重ね合わせて読み、「文化を受けつぐ」こととはどういうことなのかわかる文章に線を引き、根拠や理由を考え、グループで交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第I次で使用したワークシートを用いて、最初の自分の考えと比べられるようにする。また新しく気付いたことをメモするようにする。</li> <li>◇情報を重ね合わせて読み、自分の考えを伝えることができる。</li> </ul>
	7	○「文化を受けつぐ」ことについて自分の考えを文章にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に使用したワークシートを振り返り、自分の考えの理由や根拠をもとに、文章を考えるようにする。</li> <li>◇情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。</li> </ul>
	8	○文章に書いた自分の考えを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えた文章をPCで共有し、友達の考えに対して感想を伝え合うようにする。</li> <li>◇文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。</li> </ul>

## 9. 本時の学習

### (1) 目標 (7/8時)

情報を重ね合わせて読み、自分の考えを伝えたり、友達の考えと比べたりすることで、考えを深めることができる。

### (2) 展開

学習活動	指導上の留意点 (指導者の指導・支援)	評価規準
1. 前時の学習を振り返り、本時の課題を確認する。	・前時で学習した、筆者の考えを振り返り、本時では「文化を受けつぐ」とはどういうことかを考えていくことを伝え、課題を示す。	
「文化を受けつぐ」とはどういうことかを考えよう		
2. インタビュー記事を読み、教材文と比べながら「文化を受けつぐ」とはどういうことなのか分かる文章に線を引き、根拠や理由を書く。	・第I次で使用したワークシートを用いて、最初の自分の考えと比べられるようにする。 (第I次…青線, 本時…赤線) ・新たに見つけた場所だけではなく、前回と同じ箇所に重ねても良いことを伝える。	◇自分の考えの根拠や理由についてまとめることができている。
3. 自分の考えをグループで交流する。	・自分の考えと比べて、共感したことや新しく気付いたことなどを意識するようにすることで、児童が考えを深められるようにする。	◇自分の考えを伝えたり、友達の考えと比べたりすることで、考えを深めることができている。
4. 「文化を受けつぐ」とについて自分の考えをまとめる。	・ワークシートに書いた根拠や理由を基にすることで、自分の考えを整理し、短い文章でまとめられるようにする。	
5. 本時を振り返る。	・「なしともも」を活用し、学んだことを振り返る。	

### (3) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">めあて</div> <p>「文化を受けつぐ」とはどういうことかを考えよう</p> <p>○話し合いの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ意見だけど理由がちがう</li> <li>・違う意見だけど理由が似てる</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;">ふりかえり (なしともも)</div>	<p>「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」</p> <p style="text-align: center;">中山 圭子</p>	<p>(スクリーン)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人と人とのつながり</li> <li>2. 昔の人たちの思いを理解すること</li> <li>3. 歴史を知ること</li> </ol> </div>
--	---	--

## 10. 指導を終えて（成果○と課題●）

### 【子どもが主体性を発揮できる授業づくり】

- 教科書と記事を読み比べる時間を確保したことにより、じっくり考えて、自分の意見をワークシートに書くことができた。
- グループ交流では、自分たちで役割を決めて、話し合いを進めることができた。
- 根拠を用いて自分の考えを書くことに時間がかかり、考えたことを交流する時間や振り返りを書く時間が少なくなってしまった。今後の課題として、授業の中でどの部分に重点を置くかを考え、時間配分をすることが必要である。

### 【協働的に学ぶ授業づくり】

- 考えを伝え合うときに意識する視点を伝えていたことにより、自分の考えと比べながら他の児童の意見を聞くことができた。
- 考えたことをスプレッドシートに記入したことで、グループ以外の児童の考えを知ることができた。
- 学級全体で和の文化を受け継ぐための大切なことについて話し合う時間が取れず、グループで考えを伝える活動で終わってしまったので、考えを更に深めるために他の児童の考えを詳しく聞くなどの活動を取り入れることができればよかった。

### 【深い学びに繋がる授業づくり】

- 教室の側面掲示に本単元で学習してきたことを掲示したことにより、今までの学習内容を確認しながら学習を進めることができた。
- 学習の始めと終わりに同じワークシートを使うことにより、児童の考えの変容を分かりやすくすることができた。
- 考えの根拠となる部分を見付ける時に、側面掲示を活用したら、根拠を更に考えやすくすることができた。

和の文化を受けつぐ  
ー和菓子を作ろうー

④ 意見を聞くときに意識すること  
・あいづち  
・はっきり  
意見は違っても理由は同じ  
意見は同じだけれど理由が違っている

⑤ 「文化を受けつぐ」ために  
大切なことについて考えよう。

記事と本文を比べて見つける

いりかえり

20	文化を受け継ぐことは、四季の移り変わりや、季節の味わいを大切にし、昔ながらの手作業で手間暇をかけて和菓子を作ったりする職人さんだけでなく道具を作る人や和菓子を年中行事に合わせて作ったり、味わい楽しむ多くの人に支えられて発展し、和の文化は、受け継がれている。
21	作る職人も、それを楽しむ自分たちでも出来る事。
22	日本の伝統的な文化を守って、後世に残すこと
23	文化を受け継ぐことは、和菓子作りの職人さんたちが一つ一つ手作業で丁寧につくり、わたしたちが季節を味わって食べることが大切だと思った。🌸
24	文化を受けつぐことは、和菓子作りにかかわる人だけでなく、それを味わい楽しむ多くの人に支えられていくこと。